

ER/救急総合診療科

診療スタッフ

センター長 山上浩

部長 山本真嗣

医長 上段梓、時田裕介、関根一朗

医員 堀池亜弥、仁平敬士、鱈口清満、福井浩之

専攻医 河上哲朗、佐々木弥生、長山未来、羽田野博
葵、田口梓、辻山美菜子、宮下紗知、澁谷大樹、熊谷
美有紀、谷口敦基、前田祐希、八百佑樹、松平綾、五
十嵐遼、菅野克也、波多部淳、山下薫

診療概要

働き方改革を見据え、3交代制のシフトで医師を配
置しながら、24時間365日断らない救急医療を実践
しています。各科・各部署の協力を得ながら、年齢、
性別、国籍、宗教を問わず、ドクターヘリ搬送受診、
救急搬送受診、Walk-in 受診以外に院内急変にも対応
しました。

救急搬送数 18,070 名 (内、ドクターヘリ搬送 14
名)

Walk-in 受診 34,770 名

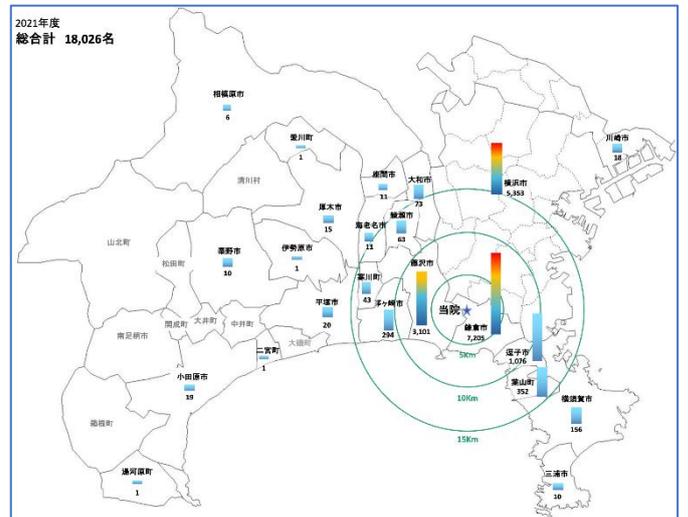
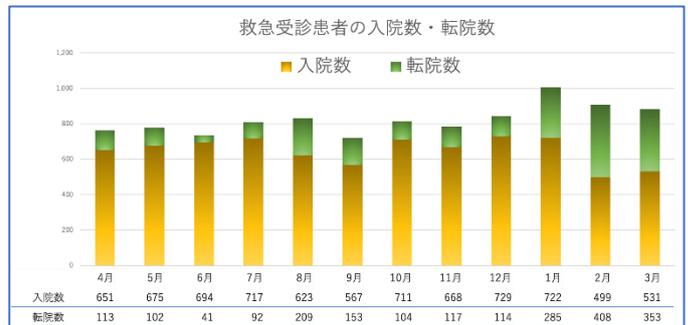
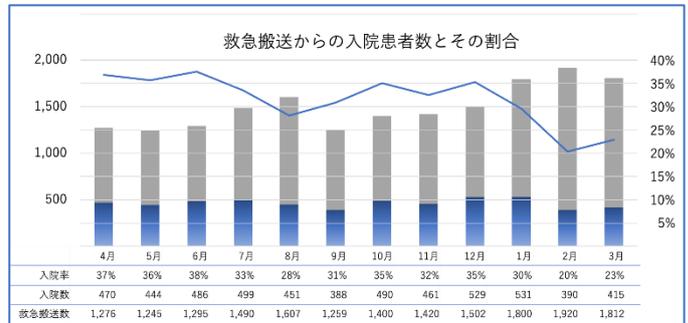
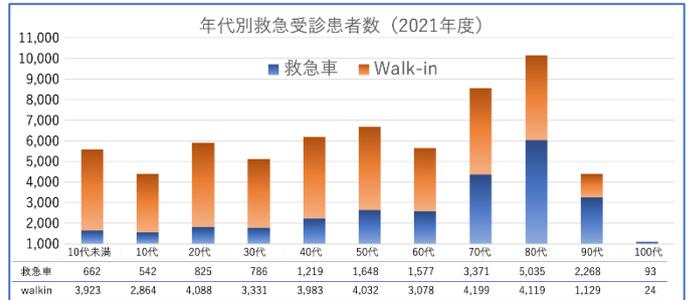
院内急変 91 名

2021 年度は前年度から引き続いて新型コロナウイルス感染症の流行が救急診療にも影響し、救急医療体制の逼迫を受けて通常より多くの搬送がありました。当院が県立の臨時医療施設の運営を委嘱されていたこともあり、救急調整室や鎌倉保健福祉事務所、県庁入院調整窓口・搬送調整班との連携が必要不可欠となり、今まで以上に行政機関との連携が深まりました。一方、臨時医療施設へのスタッフの捻出に伴い当院の病床が逼迫し、当院での入院が叶わず、救急調整室との連携の下で多くの患者の転院搬送を行ってきました。この間、周辺地域との医療連携のあり方をより追求した時期でもありました。

年度末には、新年度に始まる新しい救命救急センター・外傷センター棟での開業に向けての準備を整え、

新体制で発展的な運営を目指しています。

診療実績



ER/救急総合診療科

【学会発表】

- 1.五十嵐遼,第49回日本救急医学会総会・学術集会,多発肋骨骨折後の広範囲皮下気腫を伴う遅発性外傷性気胸,2021.11.
- 2.関根一朗,第49回日本救急医学会総会・学術集会,救急救命士が救急外来で活躍する術は救急救命処置のみにあらず,2021.11.
- 3.山上浩,第49回日本救急医学会総会・学術集会,急性期病院が、地域在宅医と急性期在宅医療をシェアする,2021.11.
- 4.久志本愛莉,第49回日本救急医学会総会・学術集会,鼠径ヘルニアに合併し外来保存的治療で治癒した特発性大網梗塞,2021.11.
- 5.田口梓,第49回日本救急医学会総会・学術集会,腐食性物質誤飲症例に対する緊急気管挿管法,2021.11.
- 6.熊谷美有紀,第49回日本救急医学会総会・学術集会,当院救急外来を受診した内因性胆道出血11症例の検討,2021.11.
- 7.前田祐希,第49回日本救急医学会総会・学術集会,一酸化中毒治療後の遅発性両側反回神経麻痺,2021.11.
- 8.堀池亜弥,第49回日本救急医学会総会・学術集会,薬物アレルギー様紅斑を来すナイアシンプラッシュ,2021.11.
- 9.谷口敦基,第49回日本救急医学会総会・学術集会,離島救急医療からみた病院群情報共有システムの有効性,2021.11.
- 10.福井浩之,第49回日本救急医学会総会・学術集会,Instagramを用いた映える広報戦略 # 湘南ER,2021.11.
- 11.澁谷大樹,第49回日本救急医学会総会・学術集会,Intracranial arterial dolichoectasiaを有する橋梗塞,2021.11.
- 12.菅野克也,第49回日本救急医学会総会・学術集会,突然発症の両肩痛をきたした椎体前膿瘍の1例,2021.11.
- 13.長山未来,第49回日本救急医学会総会・学術集会,Utho徴候による痙攣を主訴に受診した多発性硬

化症,2021.11.

- 14.宮下紗知,第49回日本救急医学会総会・学術集会,右心腔内気泡像を契機に診断した門脈内ガス・非閉塞性腸管虚血,2021.11.
- 15.仁平敬士,第49回日本救急医学会総会・学術集会,経鼻胃管よる両側声帯麻痺をきたした一例,2021.11.
- 16.佐々木弥生,第49回日本救急医学会総会・学術集会,蜂窩織炎と鑑別を要した感染性大腿動脈瘤,2021.11.
- 17.辻山美菜子,第49回日本救急医学会総会・学術集会,"新生児診察やスクリーニング検査で異常を指摘されず痙攣重積で受診した日齢15日の22q11.2欠失症候群",2021.11.
- 18.鱈口清満,第49回日本救急医学会総会・学術集会,産科救急のチームビルディングに向けた3つの取り組み,2021.11.
- 19.久志本愛莉,第48回日本集中治療医学会学術集会,腎移植後患者に発症した水痘帯状疱疹ウイルス肺炎、髄膜炎の一例,2022.3月.
- 20.山本真嗣,第27回日本災害医学会総会・学術集会,COVID-19受診・入院依頼に対してロジスティックとして救急調整室が果たした役割,2022.3.

【学術論文】

- 1.小山洋史,會田悦久,山上浩,熊谷知博,西口翔,神尾直,河内順,病院敷地外に設営された本邦初の新型コロナウイルス感染症中等症専用の臨時仮設医療施設についての報告:神奈川県第2波までの経過(A report of a 180_bed temporary prefabricated field hospital for COVID_19 in Japan)
日本救急医学会雑誌: Journal of Japanese Association for Acute Medicine Volume 32, Issue 8"
- 2.Ono R, Sekine I, Yamagami H. A woman with neck pain and hemiplegia. J Am Coll Emerg Physicians Open. 2021 Mar 26;2(2)
- 3.Fukaguchi K, Yamagami H, Soeno S, Hara K, Shirakawa T, Sonoo T, Nakamura K, Goto T. Association of Initial Potassium Levels with the

ER/救急総合診療科

Type of Stroke in the Emergency Department. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2021 Aug;30(8)

4.Kawachi J,Koyama H,Aida Y,Kamio T,Yamagami H,Nishiguchi S.Spontaneous pneumothorax with coronavirus disease 2019 in non-ventilated patients: A single-center retrospective case series. Ann Med Surg (Lond). 2021 Dec;72:103134.

5.久志本愛莉,関根一朗,辻山美菜子,鱸口清満,福井浩之,山上浩,外来保存的治療で治癒した特発性大網梗塞,日本臨床救急医学会雑誌, 2022; 25(1), 89_93.

6.Fukaguchi K,Yamagami H,Soeno S,Liu K,Sonoo T,Nakamura K,Goto T,The Diagnostic Accuracy of Costovertebral Angle Tenderness in the Emergency Department.,RESEARCH FORUM ABSTRACT| VOLUME 78, ISSUE 4, SUPPLEMENT , S151, OCTOBER 01, 2021

急時の輸液(解説)

泌尿器外科 34(5): 502-506 2021

展望/抱負

超高齢社会を迎えた今、2024年4月から医師の働き方改革が始まります。救急医療の需要と供給のミスマッチが生じ、今まで以上に湘南ERの存在意義が大きくなると考えております。質の高い安定した救急医療を提供するため、全職種一丸となってチームワークを発揮し、全国どこでも柔軟に活躍できる人材育成にも取り組んで参ります。

その他の活動

【研究費】

令和3年度 救急に関する調査研究事業助成

2021-04 から 2022-09 | 研究助成 一般財団法人救急振興財団 (東京, JP)

URL: <http://fasd.jp/publics/index/212/>

【受賞】

2022-03 | Best Abstract Award (The 1st Joint Scientific Congress of TSCCM, TSECCM and JSICM)

【依頼講演】

山上浩

1.2021年9月11日 東北大学 Web 講演 「湘南ER」

2.2021年10月19日 かまくら健康シニア大学 「元気な時こそ考えたい、人生の最終段階」

【執筆】

鱸口清満

泌尿器科診療に役立つ周辺手技と処置(第33回) 緊